

【3-35】

湾・灘の区分	広島湾、安芸灘、伊予灘、燧灘、周防灘
取組の名称	エコツーリズムの推進活動、エコツアー等、地域環境資源の保全と活性化
事業期間及び事業費	事業期間：2010年度(平成22年度)～継続中 事業費：平成23年度～30年度までは、生物多様性保全推進交付金(エコツーリズム地域活性化支援事業)及び協議会運営費を中心に実施。
事業体制	自治体を中心とした瀬戸内ツーリズム推進協議会及び大学/企業/NPO 団体/個人で構成された(一社)瀬戸内海エコツーリズム協議会
事業の背景・目的	<p>瀬戸内海は、わが国最大の豊かな自然環境資源と海洋文化・歴史を有する内海部である。特に、瀬戸内海国立公園の島々が多様に存在し、豊かな環境資源と景観を有している。この豊かな自然環境資源と歴史文化資源を長期的に保護し活用するには、自然景観と生物多様性の存在を実感しその価値を満喫する具体的な活動やシステムが必要である。そこで、当事業では、「瀬戸内海の生態系景観を見つめ自然と文化を探り、多様な自然を守る」ことを理念としたエコツアーを構築し実践し、自然環境の保全、地域コミュニティの振興、新たな観光ビジネスの振興を目指す活動を行う。</p> <p style="text-align: center;"> エコツアーを通じて、地域環境（生態系景観）のあり方を考え、その保全・再生に取り組み、生物多様性の確保を目指す </p> <p style="text-align: center;"> 瀬戸内の自然環境と歴史・文化を学ぶ エコツアーの実施 </p>
事業場所の詳細	<p>宮島・防予諸島・安芸灘諸島を中心とした西瀬戸広域エリア</p> 

<p>事業内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. エコツーリズムの構築 瀬戸内海国立公園の環境資源を評価し、その資源を活用したエコツアーの開発を行う。 ○宮島エコツアー(外国人観光客向け/国内観光客向け) ○安芸灘諸島(蒲刈)エコツアー ○防予諸島(周防大島)エコツアー 2. セミナーやフォーラムの開催 自然環境の保全や生物多様性の確保に向けた情報・技術的手法・取り組みなどについてのセミナーやフォーラムを開講し、一般に普及啓発を図る。 3. 人材育成 地域コーディネーターやエコツアーガイド(インタプリター)などの人材育成を行うため、養成・研修体制を構築し、実践的活動を行う。 4. 施設整備と地域活性化 エコツーリズムを運用するために必要な情報提供基地(DMO)、宿泊施設などの施設整備やエコツアーサイトの地域活性化のための基盤の構築を図る。 5. エコツーリズム関連資源調査 瀬戸内海の海洋哺乳類スナメリの存在確認調査、沿岸域生物調査の実施
<p>取組による効果・影響及びその判断基準等</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の特性を活用した着地型観光ツアーの検討 <ul style="list-style-type: none"> ・資源量調査を行うことにより、地域環境資源の価値を認識し、地域が抱える環境問題の改善が期待できる。⇒生物多様性の保全 ・地域資源の有効利用が図られ、新たな観光資源が創出されることにより、活力を失ったコミュニティの再生が期待できる。⇒地域再生/活性化の継続性 ・着地型観光ツアーを検討することで、地域の特性を活かした新規事業の開発による島の雇用促進、島の活性化が期待できる。⇒新規事業の開発/雇用の促進 2. 訪日海外旅行者(インバウンド)を見据えた、着地型観光ツアーの検討 <ul style="list-style-type: none"> ・インバウンドを見据えた着地型観光ツアーを開催することにより、外国人集客のためのネットワークの構築が期待できる。⇒インバウンドの集客性の向上 3. 人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ・質の高いインタプリテーションの提供が可能となる。また、育成した人材が、地域の内外でエコツーリズム推進の担い手として活躍することが期待できる。⇒人材の発掘・強化、地域再生/活性化の向上 ・インバウンドの観光価値に対応した育成カリキュラムを構築することにより、満足度の高いツアーの提供ができる。⇒インバウンドの満足度向上 4. 長期滞在のインフラ整備の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊設備、空き家、古民家、防災施設、交通体系等を活用した情報発信拠点の創設の検討を地域の多様な主体と連携を図り実施することにより、海外へ地域の魅力を発信することが期待できる。⇒情報発信の強化、地域連携 ・地域の魅力を発信(エコツーリズムの広報活動)することにより、集客に期待ができる。⇒地域再生/活性化の継続性 5. エコツーリズムフォーラムの開催 <ul style="list-style-type: none"> ・エコツーリズムフォーラムを開催することにより、エコツーリズムや環境保全の啓発を推進することが期待できる。⇒エコツーリズムの普及、意識向上 6. 「エコツーリズム推進全体構想」の作成と認定申請に向けた支援活動 <ul style="list-style-type: none"> ・エコツーリズム推進全体構想作成のための調整や検討を推進することが期待できる。⇒自治体によるエコツーリズム全体構想の認定申請に向けた取り組みの促進。

(続き)取組による効果・影響及びその判断基準等	<p>7. エコツーリズム関連資源調査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島湾南部、防予諸島、周防灘、備讃瀬戸安芸灘でのスナメリ目撃調査の実施。特に周防大島久賀、野忽那島、粟島でのスナメリコロニーを確認。(スナメリ・エコツアーの実施)
現状での課題	<p>瀬戸内海の豊かな自然や歴史、文化を紹介し、受け入れる地域体制やツアープログラムの在り方、そしてインタープリターの教育など多くの課題が存在している。また、日本国内は、インバウンドを迎える観光政策が活発化している。すでに、瀬戸内海圏域でも多くのインバウンドが増加しつつある中、果たして、エコツーリズムとしてのインバウンドを満足する観光のスタイルや価値観が十分に得られているのか疑問である。</p> <p>【瀬戸内海の現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○島嶼部の空洞化により瀬戸内海特有の景観が消失している。 ○瀬戸内海の島々では、人口の減少、高齢・過疎化による地域社会の衰退と無生産化(無人島化)が進行している。このため、自然環境管理がされなくなったことによる希少種の消失と森林の荒廃が加速している。 ○島の農業の生産の劣化や、関連する地場産業の衰退が著しく、雇用の場が不足している。 ○島の漁業の生産の劣化や、関連する地場産業の衰退が著しく、雇用の場が不足している。 ○瀬戸内海の海域部や国立公園においては、エコツーリズムの概念に基づいたエコツアーが確立していない。また、エコツーリズムのサイトもばらばらと点在しており、連続性がない。 ○地域の特性を活用した着地型観光ツアーが確立していない。 ○インバウンドを満足させる観光の価値観やツーリズムのスタイルが十分に考慮されていない。 ○インバウンドのニーズと受け入れる地域側とのギャップがある。 ○インバウンドを相手としたエコツーリズムを専門とするガイドがない。 ○インバウンドが長期滞在する宿泊施設等のインフラ整備が整っていない。 ○地域の魅力を発信するための英語版のホームページやガイドブックが少ない。
今後の予定等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の特性を活用した着地型観光ツアーの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・これまで実施してきた体験プログラムを組み合わせた着地型観光ツアー(モニターツアー)を実施する。 2. 訪日海外旅行者(インバウンド)を見据えた、着地型観光ツアーの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・これまで実施してきた結果を踏まえ、インバウンドのニーズに応じた着地型観光ツアー(モニターツアー)を実施する。 3. 人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ・エコツーリズムを専門とする人材育成講座として、エコ塾を開校する。これまでのカリキュラムに多様性を持たせ、通訳・ガイド、コーディネーター、ツアーデザイナー、プロデューサー等の受講者の希望に対応できる育成カリキュラムを構築する。 ・ひろしま通訳・ガイド協会や環境系の教育に特化した専門学校等と連携し、エコツーリズムコーディネーターの育成カリキュラムの構築を進める。 ・教育プログラムを履修し、修了した受講者に対するエコツーリズムの「資格認定制度」を充実させる。 4. 長期滞在のインフラ整備の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内海の魅力を全国、全世界の人々に知ってもらうために、エコツーリズムの情報発信拠点の創設を、地域の多様な主体(地元住民、役場、漁師、学生、ゲストハウス活動家や通訳・ガイド協会等)と連携を図り具現化する。 ・地域観光として活用可能な施設の検討を行う。 ・地域の魅力を発信するためのエコマップやエコツアーガイドブックの日本語版と英語版を作成する。

<p>(続き)今後の予定等</p>	<p>5. エコツーリズムフォーラムの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内海エコツーリズムの国内外への啓蒙を図るためのエコツーリズムフォーラムを開催する。 ・エコツアーの国内外先進地からインタープリターやコーディネーター、ガイドを招き、それぞれの活動状況を紹介したうえで、瀬戸内海のエコツーリズムのあり方についてディスカッションを行う。 <p>6. エコツーリズム推進全体構想の作成と認定申請に向けた支援活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮島(廿日市市)に続いて、瀬戸内海の自治体との調整を図り、エコツーリズム推進全体構想の作成と認定申請に向けた支援活動を実施する。 ・全体構想を具現化するため、協議会検討、市・町の他部局・県・環境省協議などを実施し、全体構想の作成を行う。
<p>取組事例についての発表資料等</p>	<p>https://setoecokyo.jimdofree.com/</p>
<p>情報提供元</p>	<p>一般社団法人瀬戸内海エコツーリズム協会</p>